

OSAKA MUSEUMS

Vol.18

大阪市文化財協会
大阪歴史博物館

発見! 特集 よみがえる歴史の舞台

大阪ヒストリア

大阪のあちこちで行われる発掘調査では、様々な時代の暮らしの跡が、日々明らかになっています
足もとに眠る新たな発見から、太古の昔よりつながってきた人々の営みと、
まだ知らなかったこの街の素顔が見えてきます



TAKE FREE
2021
9月11日

A Day in the Life of a Curator

学芸員の一日



10:00 ~

デスクで展覧会のための調査や、コレクション検索のデータベース整備、開館記念のイベントの調整をする。7月に移転した新しい事務所はフリーアドレスで、毎日違う席に座るように心がけている。

File 007

大阪中之島美術館
学芸員 大下裕司さん

大学在学中から美術館に学芸アシスタントとして勤める。その後、芸術祭や国際展の企画に携わり、横浜美術館の学芸員などを経て現職に。専門は80年代以降の現代美術など。



※本誌掲載用に撮影時のみマスクを外しています

準備作業と共に、時に渉外業務も担当。この日は、大阪商工会議所で、2022年のカレンダーの打合せ。



14:00 ~



移動手段は、自転車も活用。「外出する機会が多く、街なかでは便利」と、現場から現場へ疾走!



16:00 ~

館内に設置するオリジナル家具の現地調査。美術館を設計した建築家・遠藤克彦さん、家具メーカー「カンディハウス」の奥平さんや家具をデザインした藤森泰司アトリエの方を交えて、実際にベンチの試作品を置きながら、色や形のバランスを確認する。

「構想開始から約40年も準備を続けている美術館の存在に興味を引かれて」と、3年前に大阪に移り、館の準備室の一員となった大下さん。今まで数々の現場で経験を積んできましたが、美術館の立ち上げに関わるのは初めてのこと。収蔵作品の点検など展示に関する仕事に加え、建物全体の仕様を考えることが開館準備ならではの仕事です。作品に影響が出ないよう収蔵庫の木材を乾燥させる「枯らし」と呼ばれる作業、ホールの音響・映像設備といった大きなことから、細かくは照明やベンチの配置、事務所の備品に至るまで。来館者と学芸員が共に快適

と感じる環境を実現するため、あらゆる可能性に目を配ります。さらに並行して開館までのプレイベントの企画も進行中と、まさに目の回るような毎日。時間が限られる中で緊張感もあります。常に「どう楽しむか?」を考えて取り組んでいます」という大下さん。開館日が決まってからは、関西最大級の展示フロアを擁する新たな美術館への注目は高まるばかり。「近隣の施設と協働・連携して、大阪の新たな文化の発信地として中之島エリアを盛り上げたい」と、多忙な日々その先に、開館後のあるべき姿を見据えています。

コレクションの点検をしていると、美術館を創る、という実感が湧きます。

コレクション・ギャラリー #7

2022年
2月2日
開館!

大阪
中之島
美術館の
名作

「赤牌」 白髪一雄 1970年 油彩、カンヴァス 259.0×182.0cm

1970年、日本初の国際大博覧会、「EXPO'70日本万国博覧会」が開催されました。白髪一雄が参加した美術グループ「具体美術協会」は展示や舞台を使ったイベントを通じて万博に参加しましたが、本作はそのうちのひとつ、「万国博美術展・現代の躍動の部」に出品されたものです。

白髪は足で絵具を伸ばして描く「フット・ペインティング」で知られますが、本作中央部分の絵肌をみると、板状の道具で絵具を伸ばして描かれているようです。うねった赤い絵具の効果により生々しい生命感を宿した本作には、白髪の「行為の痕跡」が刻みこまれています。



足もとに眠る、大阪の街と暮らしの記憶を発掘!



左/豊臣期大坂城の石垣(南面)。切石ではなく自然石のほか建物の礎石・石臼なども転用されている。下/金を好んだ秀吉を象徴する、豊臣期大坂城を飾った金箔瓦(16世紀末/17世紀初頭)



「太閤さんのお膝元」のシンボルとしてお馴染みの大阪城。豊臣秀吉が築いた城は大坂夏の陣の後、徳川幕府による再築の際に完全に地中に埋められました。これまで発掘の機会が少なかったのですが、約30年前に見つかった豊臣期詰り丸石垣の公開展示に伴い、昨年、再発掘を実施。地下約7mを掘り下げる大規模な調査で、今とは大きく異なる石垣の姿が明らかになりました。蘇った石垣から、太閤さんの大坂城を想像するのも楽しみの一つです。

発見!

中近世
地下7mから出現!
秀吉の大坂城の真の姿

発掘時の後期難波宮大極殿跡。同じ場所に当時の基礎が復元されている。(表紙参照)



発見!

古代
「大化の改新」の舞台は大阪
幻の都、難波宮の謎を解明!

Column その頃、暮らしは?

犬は中世のご当地キャラ?

大坂城跡や大坂城下町跡で数多く見つかる出土品の一つが、犬形の土人形。犬は多くの子を産むことから、豊臣期に安産のお守りとして流行し、土産物としても作られていたようです。現在なら「ご当地キャラ」として人気を博したかも?



豊臣期の犬の土人形(16世紀末)。体長5cmほどで表情も様々

魚で分かる!? なにわの食事情

大坂城下町の魚市場跡で出土した木簡には、おなじみのタイやアジ、サメなどの記載もあり、全国から魚介が集まったと考えられます。ちなみに武家・商家跡ではサザエやアワビ、庶民の家の跡ではアサリやシジミが多く見つかり、身分による食卓の違いが垣間見えます。



大阪市中央区道修町の魚市場跡出土木簡(17世紀初頭)

Column その頃、暮らしは?

生前の人となりも伝わる? 十人十色の副葬品

梅田墓では埋葬人骨と共に、350点を超える蔵骨器や多数の副葬品が出土。数珠玉、簪(かんざし)、櫛、眼鏡、煙管(きせる)、酒盃など多岐にわたります。また、子供の墓からは玩具や土人形なども見られ、当時の人々の姿がぐっと近く感じられます。



七福神をかたどった土人形や徳利のほか、「三途の川の渡し賃」といわれる六文銭も出土!



右/開発が進む「うめきた」エリアに広がる梅田墓発掘現場の全景。上/人骨が収まった無数の墓穴から、埋葬の様子がリアルに伝わる。

発見!

近世・近代
昔は人気のデートスポット!?
梅田墓が伝える市井の生活



Column その頃、暮らしは?

昔も今も、味の決め手は塩にあり!?

難波宮の周辺に広がる町である難波京で開かれた市などに、全国から集まった産物の一つが塩。海水を煮詰めて作った塩を運んだ、製塩土器が多数見つかっています。播磨や淡路(兵庫県)、遠くは筑紫(九州)~長門・周防(山口県)産のものもあり、古代から欠かせない調味料だったことが伺えます。



大阪市天王寺区上本町遺跡で出土した奈良時代(8世紀)の製塩土器

金属の装飾品がトレンドアイテム!?

難波宮周辺では、銅・鉄製品、さらに工具などが見つかり、高度な金属加工が行われていたと考えられます。中には金メッキの耳環、帯金具など多彩な装飾品もあり、古代の人々のファッションセンスが垣間見えます。



大阪市天王寺区細工谷(さいくだ)遺跡出土の銅製の帯金具・匙、鉄製の斧・釘・鏝(やじり)など、枝銭(P4)と同じ溝から見つかった。

歴史の足跡をたどる 発掘調査の専門家集団

大阪市内の文化財の発掘調査、研究、保存と活用を進めるため、1979年に発足した大阪市の文化財協会。それまで遺跡ごとに分れていた調査会を統合し、幅広い分野からなる専門家が協力し、多くの遺跡・遺物の発掘に携わってきました。市街の再開発が盛んになった80~90年代に発掘調査は急速に進み、40年以上にわたる調査では、三万年前の旧石器時代から百数十年前の近代まで、時代ごとの大阪の街と人の営みの姿が明らかになっていきます。

難波宮跡や大坂城跡をはじめ、市内で発掘された数々の出土品の主なものは、文化財協会展示室や大阪歴史博物館で展示されています。また、新たな調査成果は特集展示「新発見! なにわの考古学」にて毎年公開。足もとに眠る、大阪の多彩な歴史を発信していきます。

Osaka City Cultural Properties Association

大阪市文化財協会

広いフロアをくまなく歩けば、時代を超えた発見が次々と!

発見!
古代
最大の展示は足もとに!
地下に眠る難波宮の遺跡

古代の難波宮が置かれていた場所に建つ博物館。その足もとには、発掘時そのままの遺跡(P2参照)が残っています。「難波宮遺跡探訪」ツアーで足を運ぶ地下の見学スペースでは、前期難波宮の倉庫跡を間近に見ることがも可能。一部は1階エントランスのガラス張りの床からも見えます。10階フロアの復元展示や出土品と合わせて見れば、古代の都の姿がよりリアルに実感できます。

※見学ツアーは新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在中止しています。

博物館地下に広がる遺構。照明で柱の位置が示されている。



右/床下に遺構が見える1階エントランス。左/博物館10階に復元された後期難波宮大極殿。



発見!
古代
昔の銭造りは苦心の連続

一見、木の枝のような遺物は、実は作りかけのお金。枝分かれしたお金の鑄型に溶かした銅を流し込み、型を外すと、お金がなる木のように見えることから「枝銭」と呼ばれます。出土例は少なく、奈良時代の和同開珎の枝銭は貴重。枝銭と共に金属加工に関わる遺物や銭の破片、失敗作も大量に見つかり、当時、銭造りが細工谷遺跡周辺で行われていた可能性を示しています(P2に関連コラム)。



2008年、天王寺区の細工谷遺跡で出土した枝銭と和同開珎(大阪府教育委員会蔵) 10階で展示中

発見!
中世
異彩を放つ男たちは何者?!
中世・堺を歩く黒マンツの正体

発見が多い展示の一つが、発掘調査や史料をもとに復元された様々な時代の街並み模型。永禄11年(1568)9月の堺の街に目を凝らすと、謎の黒マンツが……。実は彼らは、外国から来た宣教師。当時の堺は琉球・東南アジアとの貿易の窓口であり、あのフランシスコ・ザビエルも訪れたそう。有力商人が自治を行い、舶来の品を扱う「唐物屋」が店を構えた堺は、中世随一の「ハイカラな街」でした。



宣教師の一人は「バレット」と呼ばれる鰐(つば)無し帽子を着用。9階で展示中

発見!
近世
文楽人形はキャラが命!
個性抜群の名脇役

大阪育ちの伝統芸能が人形浄瑠璃文楽。キリッとした男前や美しい娘の文楽人形は舞台の花形ですが、中には強烈な個性を放つ人形が大勢います。立兵庫の鬘が華麗な最高位の遊女「傾城」、頑固で嫌みな敵役「陀羅助」。極端に横長の顔が甲羅に似ていることから名付けられた「蟹」も、その一つ。飛び出た目、大きく開いた口はいかにも三枚目で空いばりの端役。愛嬌があり憎めない顔です。ユニークな顔で役を想像してみるのも面白い。



文楽人形かしら「蟹」(大阪歴史博物館蔵) 9階で展示中

発見!
近世
江戸時代の庶民のレジャー!
観光マップ片手に寺巡り

今も昔も、お出かけは楽しいもの。江戸時代の大坂では近隣の寺社巡りが人気でした。近松門左衛門の「曾根崎心中」にも登場する大坂三十三所観音廻りをはじめ、稲荷、天満宮などコースも実に様々。神仏への参拝が手軽な行楽にもなり、「大坂七墓巡り」(P3参照)のように年中行事であったものも。観光マップのような案内も発行され、地図を片手にウロウロ……といった姿は、今の観光地と同じだったかもしれません。



江戸時代の「大坂三十三所観音廻り案内」(大阪歴史博物館蔵) 9階で展示中

発見!
現代
未来の人々へのメッセージ!
1階フロアに潜む巨大な球体

「タイム・カプセル EXPO'70」(大阪歴史博物館蔵) 内径1m



博物館1階、奥まった一角に展示されている重量1.74tの巨大な球体。実は1970年、大阪で日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業(現パナソニック)によって造られたタイム・カプセルの同型品です。当時の生活・文化を代表する2098点の品々を取めたカプセルが、今も大阪城天守閣前の地中に眠っています。未来の人々はどんな歴史を発見するのか? 想像が膨らみます。

古代から現代まで
 大阪の歩みを体感

今年の11月3日に開館20周年を迎える「大阪歴史博物館」。都市のおおさかの歴史や文化を広く紹介するミュージアムです。今なお発掘が続く難波宮跡の中に建つこのミュージアムは、まさに歴史の舞台にあります。

原寸大で再現された後期難波宮大極殿に始まり、天下の台所と呼ばれた近世のにぎわい、活気あふれる近代「大坂」の時代の繁華街：時を超えて、はるか古代から現代までの街と暮らしの変化を追体験しながら、当時の遺物や資料を通して、時代の息づかいが感じられます。

また発掘を担う大阪市文化財協会と連携して、最新の発掘成果を速報するなど、展示の内容も年々充実。知られざる大阪の歴史に出会える展示は、訪れるたびに新しい発見があります。

Column

中大兄皇子と一緒に古代の謎を解く リアル謎解きゲームにチャレンジ!

大阪歴史博物館では、リアル謎解きゲーム「時をさまよう皇子と失われた都」を開催中。現代に迷い込んだ中大兄皇子が持つ書物の暗号を、博物館内や難波宮跡公園を巡って解き明かす体験型イベントです。天から与えられた、「失われた都」にまつわる歴史の謎、ぜひチャレンジしてください。



時間:9:30~17:00 ※10/8~12/3の全曜日は~20:00(入館は各30分前まで) 料金:当日2,500円、前売2,200円(博物館入館料を含む)
 HP: <http://rekishinazotoki.com/> ※チケットは販売数に達し次第終了

Osaka
 Museum of
 History

大阪歴史博物館



大阪市立美術館
〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82(天王寺公園内)
☎06-6771-4874
【開館時間】9:30AM～5:00PM
※入館は閉館の30分前まで
【休館日】月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、
展示替期間(10/25～11/12)、9/20は閉館、
年末年始(12/30～1/3)
【コレクション展観覧料】
一般300円、高校生・大学生200円
※特別展は別料金

9/4～10/24
千四百年御聖忌記念特別展
聖徳太子 日出づる処の天子
令和4年(2022)、聖徳太子が没して1400年目を迎えます。聖徳太子ゆかりの寺院では、聖霊会をはじめ太子の偉業を偲ぶ大規模な法会が催されます。100年に一度の節目にあわせ、聖徳太子の生涯をたどり、没後の聖徳太子信仰の広がりを紹介します。



特集展示
井口古今堂と近代大阪
—船場の表具師と芸術ネットワーク—
井口古今堂は、天保元年(1830)曾根崎に創業し、慶應年間から船場を拠点として5代にわたって活躍した表具の老舗にして、文化サロンとしての役割をも演じました。近年の調査の結果を踏まえ、近代大阪の芸術文化の躍動をご紹介します。

コレクション展
社寺縁起 —聖なるファンタジー—
社寺草創の由来、祀られた神仏の霊験を語るさまざまな社寺縁起関連作品を、館蔵および寄託作品をあわせて大公開します。神仏と人との間に起こった摩訶不思議な出来事＝聖なるファンタジーの世界をどうぞお楽しみください。




大阪市立自然史博物館
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23
☎06-6697-6221
【開館時間】9:30AM～5:00PM
(11月～2月は4:30PMまで)※入館は閉館の30分前まで
【休館日】月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、
年末年始(12/27～1/4)
【常設展示観覧料】大人300円、高校生・大学生200円
※特別展は別料金

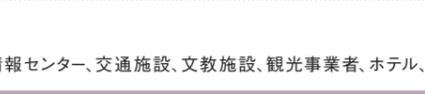
～9/26
テーマ展示
砂浜の砂とその自然
砂浜の砂は場所によって砂粒の種類、大きさ、色などが異なります。博物館で収集した日本全国の砂浜の砂を展示し、地域ごとに異なる砂浜の砂の多様性ととも、砂浜環境に暮らす動物・昆虫・植物について紹介します。



～10/10
特別展
ノーベル賞受賞100年記念アインシュタイン展
アインシュタインの科学理論や日本とのつながりについて、国内外の貴重な資料やゲーム等を通して子どもから大人まで楽しみながら学べる展覧会です。大阪市立科学館と大阪市立自然史博物館ほかの共催です。

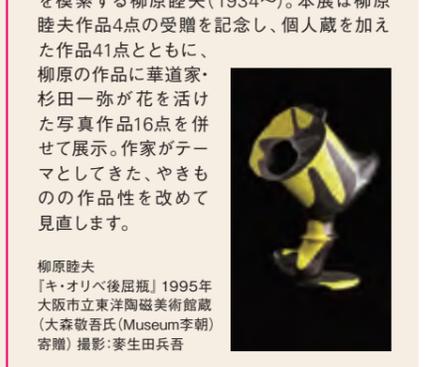


10/9～11/7
テーマ展示
メタセコイア—命名80周年記念展—
2021年は、「生きている化石」として知られるメタセコイアが三木茂博士によって命名されてから80年になります。今回の展示では、三木博士のコレクションとともに、メタセコイアの歴史や保存活動などの関連資料を展示します。




大阪市立東洋陶磁美術館
〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-26
☎06-6223-0055
【開館時間】9:30AM～5:00PM
※入館は閉館の30分前まで
【休館日】月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、
展示替期間、年末年始(12/27～1/4)
【入館料】一般1,400円、高校生・大学生700円
※企画展のチケットで、コレクション展を含むすべての展示をご覧いただけます。

～2022/2/6
企画展
受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器
1960～70年代、アメリカ美術の動向を現地で体感し、帰国後は、日本のやきもの豊かな文化の連続性を保ちつつ、現代の新しい表現を模索する柳原睦夫(1934～)。本展は柳原睦夫作品4点の受贈を記念し、個人蔵を加えた作品41点とともに、柳原の作品に華道家・杉田一弥が花を活けた写真作品16点を併せて展示。作家がテーマとしてきた、やきものの作品性を改めて見直します。



企画展
福井夫妻コレクション 古九谷
鮮麗な色彩による斬新な文様が魅力の江戸時代の初期色絵磁器は、「古九谷」あるいは「古九谷様式」とも呼ばれています。17世紀のごく短い期間に生産され、人々が集まる特別な場で使われたと考えられています。本展では、関西在住の福井夫妻により約20年にわたって収集された「古九谷」コレクションから28点を紹介。創造性とエネルギーに満ちた、多彩な表現を見ることができま。




大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32
☎06-6946-5728
【開館時間】9:30AM～5:00PM
※入館は閉館の30分前まで
【休館日】火曜(祝日の場合は翌平日)、
年末年始(12/28～1/4)
【常設展示観覧料】
大人600円、高校生・大学生400円

9/1～10/25
特集展示
大阪の太子信仰
—旭区太子橋の太子講資料—
2021年は聖徳太子遠忌1400年にあたります。旭区で近年まで太子信仰を伝えてきた民俗行事の関係資料を紹介します。



10/2～12/5
特別展
難波をうたう—万葉集と考古学—
難波(なにわ)は万葉人の故郷のひとつ。本展では難波の飛鳥・奈良時代を、発掘調査で見つかった遺跡・遺物と万葉歌で照らし出します。
【観覧料】大人1,000円、高校生・大学生700円

はるくさ木簡 大阪市指定文化財 飛鳥時代 難波宮跡出土 大阪市教育委員会蔵 大阪市文化財協会保管
特集展示 **10/27～12/20**
新発見!
なにわの考古学2021
令和2年度に行われた大阪市内における発掘調査の最新成果を、遺物と写真パネルで紹介。



12/22～2022/2/21
特集展示
大大阪、その西へ
—湾岸・河口地域の変遷史—
近世の新田開発で生まれ、近代的な港湾・工場の建設により発展を遂げた大阪市西部の歩みをたどります。



大阪市立科学館
〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-1
☎06-6444-5656
2022/2/1(火)まで、施設整備等のため休館しております。
休館中に実施予定のオンライン事業については、科学館公式ホームページをご覧ください。

「大阪市立科学館 連続オンライン講座」を開催します!
学芸員がそれぞれの専門分野や大阪市立科学館の資料や展示に関する話、タイムリーな話題など、バラエティ豊かなテーマでお話します。
日時
9/4(土)～2022/1/22(土) 隔週土曜日
午前10時30分から約90分間(見逃し配信あり)
参加費
1回300円、全11回2,000円



申込方法、テーマなど詳しくは科学館公式ホームページをご覧ください。

2022年2月2日、プラネタリウムリニューアルオープン!
リニューアル後のイメージ

2019年春のリニューアル第1弾ではプラネタリウム投影機を一新しました。今回の第2弾では、新たな全天周映像システムを導入し、プラネタリウムの座席もリニューアルします。美しい星空や臨場感あふれる映像を、よりゆったり快適にお楽しみいただくことが可能になります。また併せて、トイレ等の施設整備も行います。2022年2月、新たに生まれ変わる科学館にご期待ください。

ツイッター学芸員@大阪市立科学館では、学芸員が科学情報や、ためてみたくなる実験などを発信中!公式Instagramも運用中です。

大阪中之島美術館
〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1
☎06-6479-0550



大阪市文化財協会
〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-6-41
☎06-6943-6833
【開館時間】9:00AM～5:00PM
※要事前確認(観覧無料)
【休館日】土曜・日曜・祝日・年末年始(12/28～1/4)



※金額表記がない場合、常設展示観覧料でご覧いただけます。※中学生以下、大阪市在住の65歳以上の方(一部特別展を除く)、障がい者手帳をお持ちの方は無料です。※団体割引などがある場合があります。詳細は各施設へお問い合わせください。

本誌掲載の展覧会・イベント等の情報は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、中止・延期など予定変更になる場合があります。詳しくは各館ホームページをご覧ください。

OSAKA MUSEUMS Vol.19
2021年12月発行予定

『OSAKA MUSEUMS』では、大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪歴史博物館、大阪中之島美術館、大阪市文化財協会を中心として、大阪市の博物館・美術館の魅力と情報を発信しています。

【OSAKA MUSEUMS】vol.18
2021年9月20日発行
発行/地方独立行政法人 大阪市博物館機構
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32
大阪歴史博物館内
TEL 06-6940-4330(代表)
制作/丸山印刷株式会社